

／／ みんなで楽しむ ／／

ピョッリオ

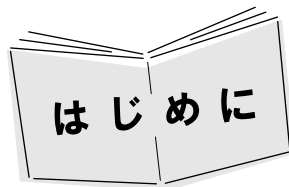
パトール

学校向け実践ハンドブック

Bibliobarteria

さいたま市図書館





ビブリオバトルは誰でも開催できる「本の紹介ゲーム」です。キャッチコピーは「本を通して人を知る・人を通して本を知る」とされていて、ただの楽しい遊びにとどまらず、本を紹介する人のことを、より理解できるコミュニケーションの場としても機能します。また、ビブリオバトルを経験した発表者はプレゼンテーション能力、スピーチ能力が向上します。さらに、ビブリオバトル実施後には、「紹介された本を読みたい」「いつも自分が手にしない本を知ることができて楽しい」等、読書への興味・関心が高まる場合が多いことが分かっています。

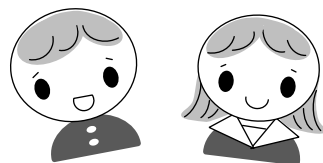


さいたま市でも、図書館のイベントや学校の授業で、ビブリオバトルを開催しています。ビブリオバトルは発表者だけでなく、観戦者も含め全員が楽しめるイベントです。「発表者の個性が発表に出ていてとても楽しい」「いろいろな人の本の紹介が本当に面白い」等、好意的な声が多くあり、好評を得ています。「さいたま市子ども読書活動推進計画（第四次）」でも、図書館と学校が連携しビブリオバトルを推進することを重点取組の一つに掲げており、このたび「みんなで楽しむビブリオバトル 学校向け実践ハンドブック」を作成しました。



このハンドブックでは、主に中学校や高校でビブリオバトルを始めたいと考えている先生や学校図書館司書に向け、気軽に実践できるよう、ルールのポイントやコツをご紹介します。さらに、学校現場に即して実践しやすいよう、さいたま市内の中学校に行ったアンケート調査結果等をもとに、授業時間の使い方や実践例も掲載しています。

このハンドブックをきっかけに、ビブリオバトルが学校でさらに広まり、子どもたちがその楽しさ、面白さを経験できることを願っています。



1 章

ビブリオバトルとは

P3

- 1 本の選定
- 2 発表方法
- 3 ディスカッション方法
- 4 投票方法
- 5 ミニ・ビブリオバトル

2 章

ビブリオバトルを

開催してみよう!

P5

- 1 クラスでの開催
- 2 実践例
  - (1) 班内ビブリオバトル (予選)
  - (2) 班代表によるビブリオバトル (決勝)
- 3 実践Q & A
- 4 その他の開催スタイル
  - (1) コミュニティ型 (小規模)
  - (2) イベント (大規模)
- 5 ビブリオバトルを開催する前に
- 6 ビブリオバトルに関連した取組
  - (1) 学校図書館との連携
  - (2) ICTの活用

3 章

実践校への  
アンケート結果

P9

- 1 ビブリオバトルを行って  
よかったこと、肯定的な変化
- 2 困ったときのQ & A

4 章

さいたま市図書館の取組

P12

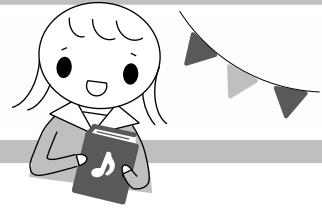
- 1 「ハンドブック」・「すぐできるキット」の作成・公開
- 2 学校訪問による支援
- 3 図書館でのビブリオバトルイベントの拡充

巻末資料

- 1 開催までのモデルケース
- 2 ビブリオバトルをもっと知りたい方へ

# 1 章

## ビブリオバトルとは



ビブリオバトルは、おすすめの本とカウントダウンタイマーがあればできる、気軽なゲームです。

### ビブリオバトル 公式ルール

- 1 発表参加者が読んで面白いと思った本を持って集まる。
- 2 順番に 1 人 5 分間で本を紹介する。
- 3 それぞれの発表の後に、参加者全員でその発表に関するディスカッションを 2 ~ 3 分間行う。
- 4 全ての発表が終了した後に、「どの本が一番読みたくなったか？」を基準とした投票を参加者全員が 1 人 1 票で行い、最多票を集めた本をチャンプ本とする。

「知的書評合戦ビブリオバトル公式サイト」より引用

ビブリオバトルは、2007年、谷口忠大氏によって京都大学の研究室で発案されました。研究室の勉強会が盛り上がり、欠ける点に疑問を持っていた谷口氏は、面白くて楽しめる、新しいスタイルを模索し、その結果、現在の型ができました。ビブリオバトルは、その後、多くの人々の努力により全国的に普及し、現在では小中学校、高校、大学、図書館、企業、地域においても実施され、人と本、人と人を結びつけています。

☆ ルールについて、以下で項目別に解説していきます ☆

### 1 本の選定

発表者(バトルー)はおすすめの本を事前に1冊選びます。ジャンル・テーマは自由です。あくまで「発表者」自身が紹介したいと思う本を選びます。なお、学校の状況によってはテーマを設定しても構いません。

マンガや雑誌等、学校への持ち込みを禁止しているものはNGにしている学校が多いです。

## 2

## 発表方法



発表者は5分の持ち時間いっぱい使って本を紹介します。時間をオーバーしたり、余らせたりしないよう、残り時間を見ながら話す内容を調整して、5分を厳守するようにします。

発表者は生き活きとした発表を行うため、事前に原稿や配布資料を用意することはしません。自分の素直な言葉で話すからこそ、人の心に響く発表になります。公式ルールでは、発表時にはメモ等、何も見ないで話すことになっています。なお、事前に話の構成を考えることは構いません。

発表順は、くじ引きやジャンケン等で公平に決めます。

### 発表のコツ

ビブリオバトルは「本を通して人を知る」イベントでもあります。本の内容を紹介するだけでなく、自分の体験談も交えてみましょう！例えば、「読んだきっかけ」や「共感した部分」を話すことで、人柄や考え方が伝わり、人の心に届く発表になります。

ビブリオバトルは本来、気負わずにできるものです。リラックスして楽しみましょう。聞き手の興味を引きつけられるよう、リアクションを見ながら、適宜アドリブを入れて、話す内容を変えられるような余裕が持てれば上級者です。

また、本の一部を朗読したり、本の中の絵を見せたりしてもOKです。

## 3

## ディスカッション方法



発表が1人ずつ終わるごとに、参加者全員でディスカッションをします。観戦者が挙手により質問し、発表者が答えます。時間は2分または3分で設定することが多いです。

ポジティブな内容の質問を心がけ、全員がお互いにとって楽しい場となるよう配慮します。例えば、「読んだきっかけ」や「印象に残った場面・フレーズ」、「好きな登場人物」を聞いたり、内容について追加説明を求めたりして、投票の判断に必要な質問をします。

## 4

## 投票方法



投票は発表者・観戦者含め参加者全員が行い、1人1票を投票します。挙手で決めたり、投票用紙を使ったりして、多数決でチャンプ本を決めます。発表者は、自分が紹介した本以外に投票します。

発表者の人気投票やスピーチの上手さで投票するのではなく、あくまで「自分がどの本を一番読みたくなったか」を基準に投票します。

## 5

## ミニ・ビブリオバトル



本の紹介時間を5分間ではなく、3分間で行うこともできます。年齢や語彙力等により5分間語るのが難しい中学生以下の子どもが行う場合を想定して認められています。ミニ・ビブリオバトルを開催する際は、「公式ルールでは5分間であること」を必ず参加者に周知します。

## 2

## 章

# ビブリオバトルを開催してみよう！

学校で開催するビブリオバトルには、図書委員会等で日常的に開催する小規模なものから、授業時間を使ってクラスで開催するもの、さらにクラス代表や学年代表が文化祭等でバトルを行う大規模なものまであります。学校で初めてビブリオバトルを取り入れる場合、まずは気軽にできる小規模なものやクラス内での開催を検討してみてもいいでしょうか。

### 1 クラスでの開催

さいたま市内でビブリオバトルを実践している中学校では、クラス単位で開催している事例が多く、このハンドブックでは、国語や総合的な学習の時間等を使って、クラス単位で開催するスタイルを中心に解説します。実践校の多くは、授業時間を3時間分以上使って行っています。

#### 授業例

- 1 時間目 ビブリオバトルの公式ルールの説明
- 2 時間目 班内でのビブリオバトル(予選)
- 3 時間目 班代表によるクラス内ビブリオバトル(決勝)

なお、学校によっては、1時間目の後、発表準備の授業を別途行い、4時間分以上使って行っている学校もあります。

★ 授業例の参考として「開催までのモデルケース」を巻末に掲載しています ★

## 2

## 実践例

## (1) 班内ビブリオバトル(予選)

まずは5人程度の班に分かれて、全員が順番に発表者となり、ワークショップ型で行います。

各班は、司会(先生)の進行に沿って、同時並行で予選を行い、最多票を得た発表者が班の代表として決勝へ進みます。

## 司会(先生)

発表の開始・終了、ディスカッションの開始・終了を全員に知らせます。

## タイムキーパー(先生)

カウントダウンタイマーを操作して、発表の5分、ディスカッション2~3分が経過したらベルで知らせます。

## タイマー

自動で鳴るタイマーもあります

教室前方に1つ置き、全員から見える位置にセットします。



## 投票(生徒)

挙手または、班の中央に本を並べて同時に指差す等の方法で行います。

## (2) 班代表によるビブリオバトル(決勝)

## 司会 &amp; タイムキーパー(先生)

## 投票(生徒・先生)

全員が行い、投票箱を使用、または挙手で行います。

投票直前に発表した本の印象が強くないよう、投票前に司会が、1番から発表順にタイトルを読み上げて参加者に伝えると良いです。

## 集計(先生) チャンプ本のみを発表します

無記名の投票用紙をバトル前に配布しておきます。  
発表番号のみを記入する方法で投票を行うと、集計がスムーズ!

### 3 実践 Q & A

タイマーは何を使えばいいですか？

ノートパソコンやタブレットにダウンロードして使うタイマー等、数字の表示が大きいものが望ましいです。

スクリーンに映すと見やすい！

5:00

バスケットボール用のスポーツタイマー等でもOK！

BOOK

決勝の投票で気をつけることはありますか？

1票も入らなかったらどうしよう...

誰に入れたか知られたくないな...



同率 **1** 位の場合はどうすればいいですか？

公式ルールに規定はありませんが「同率チャンプ本とする」または「決選投票をしてチャンプ本を決定する」等の方法があります。

班内でのグループワークでは代表者1名を選出する必要があるので決選投票が望ましいです。決勝では同率チャンプ本にすることもできます。

発表者の前で挙手することは、発表者への配慮から控える場合もあります。発表者が後ろを向いた状態で挙手したり、観戦者が机に顔を伏せて挙手したりする方法もあります。また、チャンプ本のみを発表し、各票の内訳を発表しないように配慮します。

司会・タイムキーパーを生徒が担当してもいいですか？

OKです！

クラスのワークショップ型で、生徒が担当する際は、班ごとに司会・タイムキーパーを決めます。先生が「各班はバトルを始めてください」「次のバトラーをお願いします」等、全体に声をかけ、各班の進行を誘導するとスムーズです。タイマーは各班にキッチンタイマー等を置き、タイムキーパーは各班司会の進行に合わせて操作します。



## 4

## その他の開催スタイル



## (1) コミュニティ型 (小規模)

図書委員会・校内有志等が、3人以上で行うスタイルです。人数が多いと、バトルの総時間が長くなり、参加者の集中力が続かなくなりますので、人数によっては予選→決勝の2段階での実施がおすすめです。

## (2) イベント(大規模)

さいたま市内の実践校の中には、学年・学校全体のイベントとして行っている学校もあります。

まず、ワークショップ型の予選をクラス内で実施し、決勝でクラス代表を決めます。さらに、文化祭や学年集会等で、クラス代表や学年代表が、多数の観戦者の前でバトルを行い、チャンプ本を決めます。

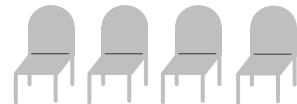
この規模になると、スクリーンやプロジェクター、マイク等の設備があると、進行しやすくなります。

スクリーン

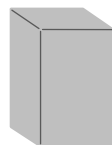


観戦者から見えるよう、スクリーンにタイマーを映し出します。

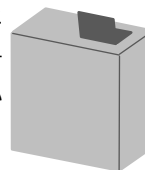
発表者席



司会



演台



演台は、スクリーンに映し出されたタイマーと発表者が重ならない位置にセットします。

演台にも発表者用にパソコン等のタイマーを置きます。発表者自身でタイマー開始の操作をしてもOK!

## 5

## ビブリオバトルを開催する前に

まずは、事前に先生同士の研修等で、ビブリオバトルを体験していただくのがおすすめです。ビブリオバトルの楽しさ、面白さを実感していただくことで、ビブリオバトルへの理解も深まります。また、子どもたちと同じ目線で取り組むことで、授業づくりにも役立てることができます。

### (1) 学校図書館との連携

ビブリオバトルを開催するにあたって、学校図書館司書が協力している学校もあります。学校図書館司書が行うサポート例は、主に2つ挙げられます。

#### サポート例①ビブリオバトルの説明・実演

先生の事前研修の場で…

図書委員会での開催の前に…

1時間目のルール説明の場で…

#### サポート例②紹介本の購入・展示

ビブリオバトル開催後の取組例として、チャンプ本や決勝で紹介された本を購入して、蔵書にしている学校もあります。開催後、できるだけ早い時期に、チャンプ本や紹介本、関連図書の展示を行うと、時機を逸せず、読書意欲の向上につながります。実際に、さいたま市内の実践校でも行われ、「学校図書館の利用が増加した」「読書量の増加もあった」等の効果が出ています。

### (2) ICTの活用

さいたま市内の実践校でも、タブレット端末を活用した例が複数あります。活用方法としては、練習時・発表時に録画機能を使用する、「Forms」のアンケート機能を使って投票する等があります。また、ビブリオバトルのイメージをつかむため、1時間目に、実際のビブリオバトルを動画で視聴している学校もあります。

## 3

### 章

## 実践校へのアンケート結果

さいたま市内の中学校に行ったアンケート調査結果をもとに、学校現場の声ををご紹介します。また、実践する中で見えてきた課題について、特に複数の学校から寄せられたものをQ&Aとしてまとめました。

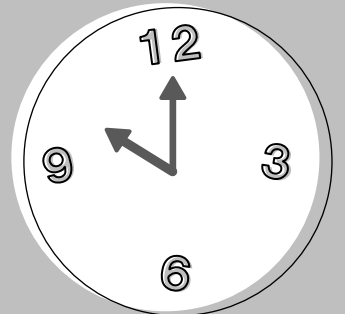
# 1 ビブリオバトルを行って よかったこと、肯定的な変化

友達の推薦本は  
教師が薦めるより  
アピール力がある

普段読まないジャンルの本にも  
興味をもち、読んでみよう  
と思うよい機会になる

ディスカッション形式をとると、  
生徒が生き生きと動いている。  
運営を生徒に任せることで、  
自主的に考え動いた。

普段見えなかった  
生徒の姿が見られた



自分をアピールすることにもなり  
スピーチの練習になった

あまり読書をしない生徒が  
「他の人が紹介していた本を  
読みたくなった」  
「本を読んで紹介するのは  
楽しかった」という  
感想をもっていた

興味をひきつける話し方の工夫を  
学ぶことができる

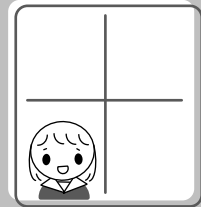
「次はもっと上手に発表したい」  
のように、「読書」だけでなく、  
「発表」への意欲も向上する

本の魅力がダイレクトに伝わるので  
読みたい気持ちを喚起する。  
終了後、その結果も含めて展示して  
おくとよく借りられる。

## 2 困ったときのQ&A

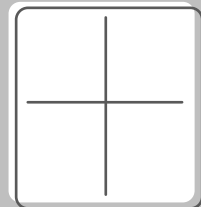
**Q** 質疑応答を活発に行うことが難しいです。  
何を聞いていいのかわからない様子がありました。

ビブリオバトルのイメージがつかめるよう、最初に公式ルールを説明する際、動画の視聴をしている学校もあります。質問が出ない場合は、司会が積極的に質問し、気軽に質問しやすい雰囲気を作るようにします。



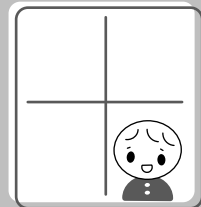
**Q** 発表で言葉につまってしまう生徒がいます

バトル実施前の授業内で、人前で実際に「発表練習」を行うのも効果的です。2人1組で練習し、お互いの発表に対してコメントし合います。バトル実施中に言葉につまってしまう生徒がいたら、司会が声をかけ、「読んできっかけ」や「印象に残った場面」等を聞き、話をつなげられるようサポートします。



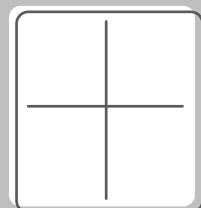
**Q** 授業時数の確保が難しいです

本選びや発表準備を授業内に行わず、宿題にすると、授業時数を短縮することができます。1時間目のルール説明と2時間目のバトル開催の間に、準備期間として、1か月開けたり、夏休みを利用したりする学校もあります。



**Q** 本の選定に偏りが見られ、教師の読ませたい本と生徒が読みたい本が異なります。

本の選択にあたり、ある程度の条件を設定すれば読ませたい本を選択する可能性は高くなると思います。ただ、ビブリオバトルは、従来の読書感想文と異なり、自分が面白いと思う本をのびのびとアピールすることを趣旨としています。自分で自由に本を選べることで、発表者の新たな一面を知ることができたり、多様な本に出会えたりできて、ビブリオバトルが楽しい場になります。



# 4

## 章

### さいたま市図書館の取組

学校で初めてビブリオバトルを行うにあたっては、具体的なイメージを持ちづらく、導入に踏み切れない場合も多々あると思います。図書館では、ビブリオバトル推進のため、様々な取組を行っています。

#### 1

#### 「ハンドブック」・「すぐできるキット」の作成・公開

このハンドブックとあわせてご活用いただけるよう、投票用紙やワークシート等を「すぐできるキット」としてまとめました。

ハンドブック・キットは、さいたま市図書館ホームページ「図書館の刊行物」のカテゴリで公開しています。ダウンロードしてお使いください。

なお、学校でのビブリオバトル開催にあたり、ご不明な点がありましたら、担当図書館または中央図書館までご相談ください。

#### 2

#### 学校訪問による支援

ビブリオバトルをまだ開催したことのない市立中学校に図書館職員が訪問し、ビブリオバトルの魅力を伝えます。

① 生徒へビブリオバトルの概要を説明します

② 図書館職員がビブリオバトルを実演します



訪問のご希望がありましたら、担当図書館までご相談ください。





#### 3



#### 図書館でのビブリオバトルイベントの拡充

例年開催している中央図書館でのビブリオバトルに加え、他の図書館でもビブリオバトルを開催していきます。さいたま市内の実践校によっては、図書館開催のビブリオバトルイベント出場に向け、予選を行い、代表が出場している学校も複数あります。

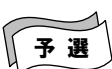

授業時数 3 時間

授業時数	内容	備考
1 時間目	ビブリオバトルの公式ルールの説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 先生や学校図書館司書による実演や動画視聴を取り入れると、イメージがつかみやすくなります。</li> <li>★ 次回までに生徒は、本を選定し、発表の構成を考えます。発表のポイントを整理するため、ワークシートを使っている学校もあります(キット参照)。</li> </ul>
2 時間目	班内でのビブリオバトル 	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ ミニ・ビブリオバトル(P 4 参照)を行っている学校もあります。</li> </ul>
3 時間目	班代表によるビブリオバトル 	



授業時数 4 時間

授業時数	内容	備考
1 時間目	ビブリオバトルの公式ルールの説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 先生や学校図書館司書による実演や動画視聴を取り入れると、イメージがつかみやすくなります。</li> <li>★ 次回までに生徒は、本を選定し、発表の構成を考えます。発表のポイントを整理するため、ワークシートを使っている学校もあります(キット参照)。</li> </ul>
2 時間目	発表の構成を考える	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 完成しない場合は自宅で作成します。</li> </ul>
3 時間目	班内でのビブリオバトル 	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ ミニ・ビブリオバトル(P 4 参照)を行っている学校もあります。</li> </ul>
4 時間目	班代表によるビブリオバトル 	

授業時数 5 時間

授業時数	内容	備考
1 時間目	ビブリオバトルの公式ルールの説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 先生や学校図書館司書による実演や動画視聴を取り入れると、イメージがつかみやすくなります。</li> <li>★ 次回までに生徒は、本を選定し、発表の構成を考えます。発表のポイントを整理するため、ワークシートを使っている学校もあります(キット参照)。</li> </ul>
2 時間目	発表の構成を考える	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 完成しない場合は自宅で作成します。</li> </ul>
3 時間目	発表練習	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 2人1組で発表練習を行い、お互いにコメントします。</li> </ul>
4 時間目	班内でのビブリオバトル 	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ ミニ・ビブリオバトル(P 4 参照)を行っている学校もあります。</li> </ul>
5 時間目	班代表によるビブリオバトル 	

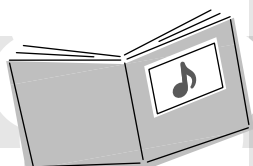
## イベント(大規模)

授業時数	内容	備考
1時間目	ビブリオバトルの公式ルールの説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 先生や学校図書館司書による実演や動画視聴を取り入れると、イメージがつかみやすくなります。</li> <li>★ 次回までに生徒は、本を選定し、発表の構成を考えます。発表のポイントを整理するため、ワークシートを使っている学校もあります(キット参照)。</li> </ul>
2時間目	発表の構成を考える	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 完成しない場合は自宅で作成します。</li> </ul>
3時間目	発表練習	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 2人1組で発表練習を行い、お互いにコメントします。</li> </ul>
4時間目	班内でのビブリオバトル 	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ ミニ・ビブリオバトル(P4参照)を行っている学校もあります。</li> </ul>
5時間目	班代表によるビブリオバトル 	
イベント	クラス代表による学年チャンプ本決定ビブリオバトル	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 文化祭や学年集会等で開催する学校もあります。</li> </ul>

★ このモデルケースは、イベント開催までの授業時数が5時間の場合です。適宜3時間、4時間でも開催できます。

## 2 ビブリオバトルをもっと知りたい方へ

- ★ ビブリオバトル普及委員会ホームページ  
知的書評合戦ビブリオバトル公式サイト <https://www.bibliobattle.jp>
- ★ 『ビブリオバトル 本を知り人を知る書評ゲーム』 谷口 忠大 著 文藝春秋
- ★ 『ビブリオバトルハンドブック』 ビブリオバトル普及委員会 編著 子どもの未来社
- ★ 『ビブリオバトル入門  
本を通して人を知る・人を通して本を知る ビブリオバトル公式ガイドブック』  
吉野 英知(ほか) 監修 ビブリオバトル普及委員会 編著 情報科学技術協会
- ★ 『ビブリオバトル実践集 読書とコミュニケーション 小学校・中学校・高校』  
須藤 秀紹 編 粕谷 亮美 編 子どもの未来社



B i b l i o  
b a t t l e



B i b l i o  
b a t t l e



編集 さいたま市図書館 ビブリオバトル拡充委員会

発行日 令和5年3月

発行 さいたま市立中央図書館

さいたま市浦和区東高砂町11-1

電話 048-871-2100

FAX 048-884-5500

さいたま市図書館ホームページ <https://www.lib.city.saitama.jp/>

B  
i  
b  
l  
i  
o  
b  
a  
t  
t  
l  
e